

## アテ (能登ヒバ) の抗ウイルス性評価

### 1 背景・目的

新型コロナウイルス感染拡大を契機に、新しい生活様式に対応したリノベーションやリフォーム需要が見込まれる。県木のアテについては、含有するヒノキチオール抗菌性等について検討されているが、木材としての抗ウイルス性の評価は行われていない。そこで、能登ヒバ(マアテ、クサアテ)としての抗ウイルス性を検討する。

### 2 技術のポイント

- (1) 能登ヒバ(マアテ、クサアテ)は、インフルエンザウイルスおよび風邪ウイルス(ヒトコロナウイルス 229E)に対して99%以上の不活化率<sup>※</sup>を示し、感染力を低下させる抗ウイルス効果が期待できる。(図)

※ウイルスの感染性を失わせる率。99%以上で抗ウイルス効果が期待

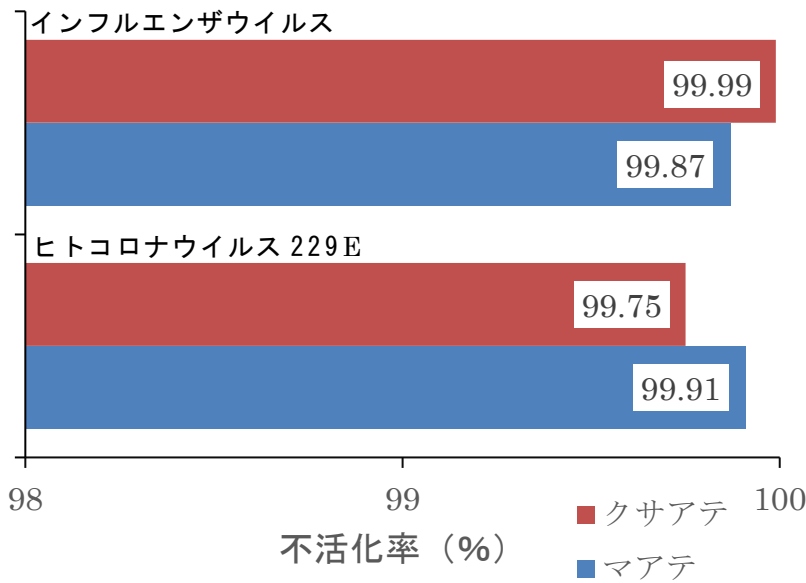


図 ウイルスに対する不活化率

### 3 成果の活用と残された問題点

- (1) 塗装等を施工していない能登ヒバ材における抗ウイルス性の評価となる。
- (2) 抗ウイルス性が発揮される能登ヒバ材の活用方法については今後検討する。

問合せ先：資源開発部 TEL 076-273-1873  
担当者：鈴木修治、松元 浩

本研究は、国立大学法人九州大学との共同研究により実施。